

2021 年 1 月



親切会

関東支部便り (No.13)

連絡先：〒101-0032

東京都千代田区岩本町 2-9-6

ゆいまーるひたち 4 階

電 話：070-3603-2172

メール：shinsetsukai-honbu@hdq.hitachi.co.jp

第 13 回 支部幹事会を開催

11 月 11 日(水)15 時から「ゆいまーるひたち 6 階大会議室」で第 13 回の支部幹事会が開催されました。

まず、鈴木支部長からコロナ禍の大変な状況下でこれまでのように寄附先への訪問なども出来るかどうか先方と調整が必要だが引き続き活動への協力をお願いするとの挨拶がありました。

続いて議事に入り、本年度の寄附先の見直しについて審議検討しました。今年度は合併や事業再編による法人会員の減少などに加え、社員食堂の閉鎖で募金箱が設置できない等、収入が厳しくなっており寄附も絞らざるを得ない。活動内容や他団体との状況を勘案して寄附を停止するところ(2ヶ所)、減額するところ(3ヶ所)を決め、一方、新規の寄附先として1件(ひたちなか理科クラブ)承認しました。

次に訪問先の分担と日程について協議。新型コロナウイルスの影響もあり、先方と協議のうえ、訪問できないところには銀行口座等への振込で対応することにしました。

更に善行者表彰として使用済み切手を長年にわたり送付いただきました旧日立化成OBの川崎寿夫様を推薦・承認されました。(右記に掲載)

また、法人化以降の懸案である当会ホームページの見直しについて、いくつかの指摘事項にどう対処するかを議論、経費面で厳しいなか、早い時期に関係者による対策会議を行い、便り新年号までの対応、今年度中に見直し、そして次年度以降に区分して取り組むことにしました。

次回開催は、3月17日(水)を予定しています。

善意をつなぐ力～善行者表彰にあたって～

縁あって親切会関東支部の手伝いを始めてから3年が経過した。この間、諸活動を通じて、長年会社を軸とした自分の常識観が少しずつ変化している事に気がついた。ささやかな支援を元にして、社会との接点のあり方を見直す機会ともなった。思い起こすと、社員食堂の隅にあった歳末助け合い募金箱に僅かなお金を入れた経験はあっても、使用済み切手については気が回らなかった。多数の郵便物が届く職場にも拘わらず、また職場の庶務担当者が親切会に送っている姿を横目で見ながらも、忙しさにかまけていた自分を今更ながら恥じ入っている次第である。

一方その対極として、親切会の活動が60年も続いて来た原動力に触れると心強い気持ちが高まってくる。今回、関東支部で善行者表彰を受賞された川崎寿夫氏は、まさに善意をつなぐ力、継続して大きな支えを築く模範生である。氏は約20年の長きに亘り“個人の立場”で大量の使用済み切手を寄贈されている。旧日立化成に勤務され、定年退職まで山崎工場の開発部門、医薬品部門、並びに本社社長室で活躍された方である。元々 親切会活動に対し高い関心を持っておられたが、とりわけ本社勤務の際に親切会第9代会長でもあった 旧日立化成会長 内ヶ崎功氏に接し、その活動に啓発されたと語っておられる。そして退職後は地域のボランティア活動の傍ら、友人・知人・卓球クラブ等 多くの方々に働きかけて応援を得ながら、個人として取りまとめた 使用済み切手を毎年多数寄付して頂いている。賛同者や地域の輪、そして次の世代への広がり等 善意をつなぐ力を大いに発揮し、謙虚な姿勢でほほ笑み続ける 川崎寿夫氏 の御厚恩に重ねて感謝申し上げます。(会田豊治 記)

コロナによる社員食堂の閉鎖等によりこれまでお願いしてきました年末募金などが大幅に減少しています。ぜひ会員のご紹介並びにご寄附にご協力をお願いします。

— 会員の紹介 —

個人会員	年会費	2,000 円
法人会員	年会費	36,000 円

— ご寄附のお願い —



個別ご寄附のほか、お仲間の懇親会の残金など

事務局(上記便りの発行元)にご連絡いただければ、申込書(払込用紙)を送らせていただきます。

コロナ禍で施設訪問が出来ず寄付も振込が多い中、先方との協議で今回も訪問することになった施設より、訪問翌日、ホームページの新着情報に当会の訪問記事を掲載いただきました。＜鈴木支部長と楠本幹事が担当＞

親切会(日立グループ)様に感謝！～ 現場ご視察とご寄付拝受 ～ (株)研進/進和学園 2020/12/04



親切会(日立グループ)様 ご視察 進和学園「どんぐりハウス」にて 2020年 12月 3日

一般社団法人親切会様は、お互いに親切にし合い困っている人に援助の手を差し伸べて、世の中を明るく住み良い社会にしていこうと取り組まれているボランティア団体です。(株)日立製作所様はじめ日立グループ各社が中心に参加される法人会員及び個人会員から構成され、「小さな親切」と「ささやかな福祉貢献」の二つを柱として活動されています。親切会様からは、進和学園が運営する「いのちの森づくり友の会」に対して、2014年度から毎年ご寄付を賜り、障害のある方達が栽培した苗木の植樹及び植樹地の保全活動をご支援頂いています。

2020年12月3日、今年も、親切会・関東支部より3名の皆様が来訪され、私共の苗木の圃場「どんぐりハウス」をご視察頂くと共に、福祉工場「しんわルネッサンス」をご慰問下さいました。



親切会様よりご寄付拝受 「しんわルネッサンス」にて



親切会の皆様と記念写真 コロナ禍のため原則マスク着用で「しんわルネッサンス」 2020年12月3日

また、ご寄付の贈呈式が行われました。

親切会様からのご寄付は毎年10万円、7年連続で累計70万円となります。進和学園はじめ連携福祉施設から成る「どんぐりブラザーズ」が協働で取り組む「いのちの森づくり」に活用し、主に障害者の工賃に還元させて頂いています。親切会様のご厚意ご支援に心より感謝申し上げますと共に、皆様のご期待にお応え出来るよう植樹活動を通じた自然環境保全、並びに障害者の自立就労支援に尽力して参りたいと思います。

<訪問幹事より>

「いのちの森づくり」は、宮脇昭(横浜国立大学)名誉教授が提唱される潜在自然植生理論に基づく「その土地本来の木による本物の森づくり」を目指し、どんぐりや木の実から植樹用のポット苗を栽培し植樹を実践する進和学園のプロジェクトです。

「いのちの森づくり」は15年目を迎え、苗木の累計出荷本数は30万本を超えています。地球温暖化を背景に自然環境保全への認識が高まり、教育やCSR、さらにはSDGs(国連の持続可能な開発のための国際目標)の動向もあり、このプロジェクトの活動を後押ししているとのことです。

今回はプロジェクトが手掛ける苗木の圃場「どんぐりハウス」と福祉工場「しんわルネッサンス」の見学をさせて頂いた後、寄付の贈呈をさせて頂きました。

寄付は進和学園はじめ連携福祉施設から成る「どんぐりブラザーズ」が協働で取り組む「いのちの森づくり」に活用し、主に障害のある方の工賃に還元されています。障害のある方、ご本人の豊かな情操を育み精神(心)の自立に繋がり、更に、苗木の販売収益や「森づくり」に係る労務の代償として工賃を得ることで、障害のある方の経済的な自立を図ることを目指しています。コロナ禍にあっても感染対策を取りながら、皆さん、生産ラインに立って元気に働いておられました。

ただ、見学の2ヶ所ともコロナ禍のために引き合いが減少しているそうですが、新しい商品や販路の開拓を行って経営の維持に努められています。そのような活動を実践しておられ、今回も我々を応対して頂いた日立産機システムOBの林田さん(67歳)の情熱には感動するばかりです。2年前に病気に罹り、治療を受けながら、テレワークで執務しておられるとのこと。一日も早い回復を祈るばかりです。

(楠本記)